復刊第48号

一九七一年九月のある午後に

副会長　川那部　喜美子

会員の皆様、ご機嫌いかがでございますか？

次ぎ次ぎに南方からの台風の訪れは、わが日本列島の秋に宿命的な事象ではありますが、今年はいつまでも歯切れのわるい湿っぽい日が続いております。爽かな秋とは程遠く、それは身近かな医療問題の成り行きや、各種複雑な公害問題、大なり小なりに空気、水、食物を通してその影響域の中に生きていることをつくづくと再認識させられるような心地がいたします。

皆様いかがでございますか？

この度は編輯部より、私に何か書くようにとのご命令にて、少し最近の感想を述べさせていたゞき、その責を塞ぎたいと存じます。

さて、わが日本女医会も社団法人となり、昨年の万博では医療業務提供を完遂して、全国会員協力のテストケースは成功いたしました。年金制度もスタートして会の経済基盤について一応の軌道が敷かれました。会の事業も吉岡弥生賞をはじめ各種の助成金が実行されて、関心が年々高まって来ております。

国際女医会との関連は、第一回の代表団十九名の参加の日から既に十一年を経過しました。隔年毎の国際会議には多数会員の出席があり、先年からは演題が提出され、いよいよその活躍が認められてまいったようであります。既報の如く小野春生常任理事（現国際女医会副会長）を次期会長候補に推挙すると決定し、一九七六年には日本にての国際女医会開催を立候補するという情勢になりました。これらのことは、女医の数が米国につぐとかいう、潜在会員の多くをもつことの他、最近の本会の実力に一応の自信ができたと申すことでありましょう。しかし会の役員の立場で諸般の問題を考えますとき、手放しでご同慶の至りと喜んで了うことはできないように思われるのでございます。

今やわが国の医育機関で女子のみのものは東京女子医大一校のみとなりました。他はすべて男女共学であります。したがって女医の会について乃至女医そのものに対する考え方が甚しく違ってまいっております。そして共学の世界に暮しておりますと彼等の考え方も少しはわかるように思われるのでございます。しかし女医会無用など、申しておるのではございません。私はかねてから三大同窓会の支柱をとり外して、自由な立場で女医個々がつくる日本女医会として広く大きく成長することを念じておるのでございます。

日本女医会にはかなり若い会員がありますが、外国ではどんなことでしょうか。私の接する範囲は狭いから或は誤解かと思いますが功なり名遂げたとでもいうような年配の女医が多いように思われますが、いかがのものでしょう。しかも日本の女医は経済的に余裕があるように思われ、実際周囲を眺めてそのように感じるのでありますが、大きく目を開けばそんな女医ばかりではない筈ですし、若い人々がどしどし参加して来なければ会としても老いてゆくことも考えておかねばならないでしょう。

三神会長の下に協力して明日の日本女医会のために会員の皆様とご一緒に進んでまいりましょう。目を開き耳を傾けながら日本に国際女医会を招致し得たならば会を立派に成功させるように努力いたそうではありませんか。

終りに会の資金獲得のために会員の一人でも多く年金ご加入をお誘い申し上げます。年金委員としてのお勧めを申し添えます。

以上

吉岡弥生賞を受けて

関西医科大学附属香里病院　野呂　幸枝

この度、計らずも四十六年度の日本女医会吉岡弥生賞を頂きましたが、女医会員にはより立派なご研究をされ、教育に臨床にご活躍の方も多いことでしょうに、私が選ばれましたことは面映い感が致します。

三神先生はじめ受賞者候補として私をご推挙下さいました先生、審査に当られました諸先生に厚く御礼を申し上げます。殊に東京女子医科大学小児科学教室の福山、笠井両教授と同学第二病院の草川教授よりご推薦のお言葉を賜りました由で、心から感謝しています。

私は女医として歩みはじめてから三十年余何時も色々な意味で縁の下の力持ちのような道を歩んで参りました。女医だからの得はなく、女医であるが故の苦悩が多い年月でした。

新生児、未熟児に関する臨床的な仕事を細々ながら根気よく続けて来ましたが、近頃ではそろそろ疲れを覚えるようになって参りました。このような晴がましい賞を頂きますと名誉と感じますより、少々戸惑っているのでございます。

しかし吉岡弥生先生を記念する賞であることは私にとりこの上もない深い感激でございまして、その理由を申し上げねばなりません。

私は親類、縁者、知人に医者があったわけでもなく、女医になるなど考えられない環境に生れ育ちました。しかし医師になる志をたてたのが、吉岡先生にご縁があったのでございます。※

講習会のお知らせ!!

消化器疾患の診断——内視鏡および、レ線検査を中心として

場　所—東京女子医大消化器センター

日　時—十二月十三日—十五日（三日間）午前九時半—午後四時

議習料—一人参千円

定　員—四十名

受講者人数四十名まで申込み順に受けつけます。人数を越えた場合は〆切ります。

申込み先

講習料を同封の上、日本女医会本部までお申込み下さい。

※小学校の頃に「小学生全集」という本を愛読しましたが、この本の中には世界名作全集、内外の歴史の話、五十年後の世界、科学や音楽の話など、随分広い知識が得られましたので、私は驚き、あこがれ、楽しさに胸をおどらせたものです。その中に少年少女出世物語という一冊がありまして、吉岡弥生先生の少女の頃のお話を読み、私が将来進む道を心に定めたと申せましょう。

小学校の恩師は女子高等師範学校から女教師にする希望で私を女学校へ進学させて下さったのですが、三年生の頃、恩師が逝かれて幼い頃に心に刻みついた吉岡先生のお姿が、女医への憧れが次第に明瞭に育って行きました。両親や、女学校の先生方の反対を押し切って大阪女子高等医学専門学校に進んだのでございます。

学校が異りますから吉岡先生にお教えを受ける機会もなく、女医会の隆盛でない頃ですから卒業後もお目にかかる時もありませんでした。しかし、小学生全集の物語を通じて、私に女医への道を歩ませたのは吉岡先生だと信じています。

吉岡賞を頂きますことは、初めて先生にお目にかかり、「医道をしっかり励みなさい」とお言葉を賜ったと同じことと思いますので、限りない感激を覚えるとともに、まだまだ前進せねばならないと自分を鞭打っている次第でございます。

私の最近の研究分野は主として未熟児に関するもので、その中心になりますのが未熟児センターでございます。

昭和三十九年春新設され、面積は二百四十平方米余で七病室と附属の七室から構成されています。収容最大人数は三十人で、年間二百五十人余の未熟児とこれに類する新生児を取扱っています。

十三人の看護婦、各種設備と備品を考えますと、私学の私共では大学の理解と協力がなくては管理は不可能でございましょう。

地域の産科小児科の先生方や助産婦方とも密接な連絡がもたれていますので、興味深い新生児も多く、外科、眼科の協力も充分ですし、全く恵まれた状態にある私ではございますが、何分にも自己犠牲の多い仕事のこととて、未熟児保育に熱意を示す医師は比較的少いようでございます。今まで何人かの熱心な後輩の協力を得て来ましたが、より多くの協力者が育つことを念願しています。

この未熟児センターでの成績を本年七月の日本新生児学会のパネルディスカッションの話題として発表致しましたので簡単にご紹介致します。

「新生児細菌感染症の特異性」

新生児細菌感染症は新生児保育の環境によるものが問題にされることが多いが、感染は出生経過中におこるのみならず、母胎内でも周生期感染もありうる。故に出生直後に発病すると免疫学的に生体防禦機構の未熟な新生児期では、重症感染症として予後が悪くなることが多い。殊に早産未熟児ではその傾向が強いのが当然である。しかも新生児の感染症初期症状は non-specific なものが多く、早期診断が困難であるために、治療開始が遅れ易い。

このような新生児感染症の特異性を各種症例をあげて説明し、早期発見の必要性につき述べ、産科と小児科の緊密な連絡の必要なことを強調した。

又、最近一年余で新生児二八五人における入院時咽頭菌検出成績では、Staphylococcus epidermidis, E. Coli, Klebsiella pneumonia, Staphylococcus aureus, Pseudomonus aeginea, Enterococcus Streptococcus Haemophilus Proteus の順で多く検出した。このうち新生児感染症を惹起する率の高いものは Pseudomonus, Staphylococcus aureus, Klebsiella の順であり、しかもこれらの薬剤対性は強い。

以上の事実から新生児感染症の早期発見、早期に適確な治療を開始するための着眼点として次のようなことが挙げられる。

一、周産期の母の発熱、尿路感染症のあった場合は新生児の早期感染症の可能性がある。

一、分娩時に各種操作を加えた新生児には注意をする。

一、早期の咽頭菌検査、その固定、菌感受性検査は早い程よい。

一、不特定の症状即ちチアノーゼ、呼吸障害、吐乳、哺乳力異常、無気力、運動の過不足、反射異常、顔つき及び泣声の異常、腹部膨隆、下痢などが重症感染症の初発症状である場合が多い。

一、発熱を全く見ないことがある。

一、白血球増多のないことがあり、時には著明な減少を見ることもある。

一、特発性重症黄疸を伴うことがある。

おわりに、吉岡弥生賞を受賞致しましての私の心境をのべ、また私の研究の母体である未熟児センターの状況と最近の仕事の一部をご紹介致し、日本女医会に対するお礼の言葉に致し度いと存じます。

尚頂きました賞金は、今後未熟児の follow up のために使用致したいと考えています。（昭和四十六年度受賞）

私と線維素溶解現象

――日本女医会、吉岡弥生賞受賞によせて――

神戸学院大学・栄養学部教授
岡本歌子

日本女医会から一九七〇年度の吉岡弥生賞をいただいた。私の二十年にわたる「線維素溶解現象の病態生理学的研究」に対してだという。私は自然科学の研究上の活動以外には、はなはだ怠けものであり、日本女医会にとってはこの上ない怠惰な会員である。そんな私が吉岡弥生先生のお名前を冠した日本女医会賞をいただいたのである。まさに私にとっては大変なおどろきであり、又感激でもあった。

× × ×

ところで、「線維素溶解現象って一体何のことですか」「一体病気とどんな関係があるのですか」とは、度々受けを質問である。この研究でこの会の賞をいただいた私には、この機関誌の紙上で、一見難解にみえるこの現象の解説と、私の研究や、その周辺について語っておく義務がありそうである。

線維素溶解現象（略して線溶現象）とは、読んで字の如く、線維素（フイブリン）が分解して、ポリペプチドになり、溶解していく現象である。この現象をおこす酵素を線溶酵素（プラスミン）という。プラスミンは種々の原因で活性化されてくる。血液凝固に際してトロンビンがプロトロンビンから活性化されるように、その前段階物質プラスミノーゲンから活性化されてくるのである。

血管内で、何かの原因で病的にフイブリン析出がおこったとする。ごく微小のフイブリンであっても、血栓の原因となり、種々の疾患となって現われる。血栓症については、基礎医学者の私がいまここで云々するまでもないことであろう。このフイブリン析出の防禦と除去のための機構がプラスミンの活性化なのである。プラスミンはでき

なくては困る。しかし一方できすぎても困るものである。強すぎるプラスミンは、出血性素因をつくる。また直接間接に滲出をおこしやすくし、アレルギーにも関与してくる。

× × × ×

血液が凝固するためには、血液内で幾多の段階が必要である。この凝塊を溶解する過程にもまた幾つかの段階が必要であろう。またこのプラスミン系が抑制されるためにも、血液凝固が血管内で抑制されているほどの抑制因子が働いているであろう。

この酵素系を「人工的に統禦してみたい」というのが、二十五年前、私の夫岡本彰祐と私とが持った夢だったのだ。当時は、ある種のプロテアーゼにプラスミンという名こそ与えられていたが、その生体内での意義はまったく不明であり、わずかにショックやアナフイラキシー時にこれが活性化されると考えると読めるような成績が提出されているに過ぎなかった。したがってこの系の統禦を研究することは同時にこの系のもつ生理的、病理的意義を研究することにも直接つながった。

× × × ×

この研究は、当時戦争の荒廃から脱け出ようとしていた三菱化成工業株式会社の研究所で出発し、その後慶応義塾大学の医学部で続けられ、現在は夫の勤務先神戸大学と私の勤務先神戸学院大学とで進行している。

三菱化成の研究所と私共との協同研究で生れたのが世界最初の抗プラスミン物質、イプシロンアミノカプロン酸（イプシロン）だった。これが、病的に活性化したプラスミンの抑制剤として使用され、臨床症状の改善をもたらす医薬として使用できることがわかるまでには、慶応大学の臨床研究者の多大な努力とがあった。抗プラスミン物質はさらに改良を重ね、アミノメチルチクロヘキサンカルボン酸に成長した。一九六二年、これらの成果については、当時神戸大学に赴任していた夫岡本はメキシコで、慶応で仕事を続けていた私はオランダで、同時に二つの国際学会で報告した。

アミノメチルチクロヘキサンカルボン酸はその後日本とスエーデンでほとんど同時にシス型とトランス型とに分離され、トランス型のみが有効であることが私共によって報告された。

慶応での私の研究室は、プラスミン研究プロジェクトのセンターであり、研究課題、方法論の討論の場であり、また実際上の実験、臨床検査の場でもあった。

一九六七年に私は慶応を去り、新設の神戸学院大学に、教授として赴任した。慶応時代の協同研究者たちは、いま、なお国外でそれぞれ研究を発展させている。

× × × ×

プラスミン系の抑制物質が臨床的に応用されるようになった頃から、私の研究上の興味は、プラスミン系統禦のもう一つの側面、つまり活性化機構に移っていた。活性化因子の追求と、その作用機序とである。ここでも私はよい協同研究者に恵まれた。当時大学院学生であり現在アメリカで活動している高田夫妻であった。

私は、彼らと共に、プラスミンの活性化に関与する血中の活性化系（これを私はプロアクチベーター・アクチベーター系と呼んでいる）の存在を証明した。現在の私の興味の中心はなおこの問題に集中している。高田夫妻もまた私とは別個にアメリカでこの研究を続行している。

私の研究室は小さい。私の講座は、教授一、講師一、助手二の小人数である。小さい大学では、教育も雑用も医科大学とは比べものにならないほど多い。しかし私共の研究グループは、学問に対する情熱だけはつよい。

現代の研究はひとりの力だけでは生れない。まとまった集団のひたむきな情熱が推進力であると私は信じる。その意味では、私はいつも幸運であった。三菱化成、慶応と、立派な友人と協同研究者に恵まれ、現在なおよい協力者を持っている。

× × × ×

私の卓の上には、恩師吉岡弥生先生のレリーフがある。日本女医会、吉岡弥生賞の記念の楯である。

≪仕事がうまくいったと喜んでいる時は、「よかったね」とほほえみかけ、失敗して、くじけそうな時には「そんなことではダメだよ」とはげましてくださる。≫

私の心に生きる恩師と、よい協同研究者と、私の仕事を評価し、はげましてくださる日本女医会の方々と……。私は幸せに包まれている。

最後に賞金の大金は、干天の慈雨であったことを書きそえて、日本女医会に改めて御礼を申し上げて、稿を終る。

（昭和四十五年度受賞）

理事会議事録

日時　昭和四十六年九月二十五日（土）午後三時

場所　日本女医会会議室

出席　三神・川那部・小俣・山崎・中西・中川・森・柳瀬・上田・佐野・小野・湯本・真鍋・鈴木・山口・松岡・長池・福永・石田・添田

欠席　久保田・丸山・守安・荒川・山本・中村・森川・阿部・大原・白橋・綾仁・佐藤・戸田・橋本・稲葉・栗原・佐藤・八木

会長挨拶

新聞誌上に某会員の事が取沙汰されているが未だ問題は未定なので暫時静観したい。

庶務報告（柳瀬）

一、会員物故者

林　ハナ（愛知県）46・8・16

清水　愛子（岡山県）46・8・16

太田　とよ（大阪）

伊藤　泰子（愛知県）46・8・24

本部より香典を贈る。林・清水両家より礼状くる。

二、ループペンダントについて

先に実用新案登録申請中のループペンダントについて四十六年八月十九日付をもって特許庁長官より登録証が送られる（登録番号第九三八四四〇号）

敬老の日に無料老人ホームへ、ループペンダントの第一次製品を寄贈したいという案は全理事の賛成を得て実行された。

現在各官庁老人ホームより本部に感謝状が続々送られている。

三、高知県支部より総会の残金として二三八、六七三円が本部に寄付された。

四、労働省婦人少年局よりの連絡で、フィンランドのレピラ夫人の家族計画問題特別報告会に山崎副会長が出席する。

五、NGO報告

国連総会へ婦人代表として出席される佐野智恵子女史の歓送会へ山崎副会長・中川常任理事が出席する。

六、台風号について

愛知県岡崎市の会員中西愛子先生宅が床上一米浸水のため見舞金五千円贈る。本人より礼状あり、八月二十三日稲葉理事の自宅より出火全焼、本部及支部よりお見舞金を贈る。

八、事務員小川安子氏が八月末日をもって退職。四宮弥生氏を採用。

九、昭和四十四年度吉岡賞受賞者広瀬（牧野）夫佐子女史より月刊誌〝病院〟ボランチア活動の特集号（昭和四十六年六月）が送られる。

会計報告（中西）
四十六年七月分八月分の会計報告あり（別紙三号）

会長発言
事務員退職金を予備費から出さず退職金の積立という別項目を立てては如何？（全員賛成）

議　題
一、定款施行規則一部改正について
（森）
庶務理事より提出された第四条選挙法についての改正試案は再検討されることになった。長期欠席理事に関する事項に関しては会長に一任する。

二、国際女医会会議について（佐野）
参加申込数が多くAコース五十五名、Bコース五十二名、同伴者十三名となっている。（別紙五号）早速第一回の打合せ会をやりたい。新入会員が参加する場合は三年前からの会費および十ケ年の会費前納をしてもらう。参加申込の取消は出発三ケ月前になった場合事務手数料五千円加算、国際会議登録料は返済しない。
演題は三神、小山両教授連名で提出した。

会長発言
参加者多数のため同伴者が入る余地が無いのではないか。

小野発言
国際女医会の会長副会長会議が九月中旬ウィーンで開かれ出席した。私は経済委員長という事であるが会費も六シリングから十シリングに上るらしい。尚パリ大会では十ドル寄附をとられるかもしれない。演題は四十題もあるのでその中のいくらかは誌上発表になるかもしれない。一九七四年のリオ・デ・ジャネイロ大会の時は消化器病学会もブラジルで開かれるので、女医会と時季を同じくしてくれと申し入れた。一九七六年の大会開催には日本女医会も立候補するが、テーマは
① 新生児の死亡率
② ビールスの感染と後遺症
③ 世界平和を望む女医の意見。
など出されていた。女医誌を編集したいので会員の自叙伝を書いて欲しいとのこと。日本で大会を開催する資料を持ってきた。日本で開催する季節は何月がよいだろうか？
（十月か十一月が良いという意見多し）

三、助成金について（会長）
トキソプラズマの感染についての疫学調査に関する助成金の申請が小山教授より出ている。（別紙六号）次期国際女医会のテーマでもあり演題も出しているので、公衆衛生部門から十万円の助成金を出してはどうか（全員賛成）

四、その他

山崎発言
石川県支部でグリーンライフという小誌（発行部数三〇〇〇——四〇〇〇）にルーペンダントの推薦文と広告をのせる計画があるが如何。（全員賛成）

会長発言
高知よりの寄付金は社会事業に使って欲しいとの事であった。
女子医大の消化器センターで内視鏡の講習会をやるといっているが日本女医会の研修会として行っては如何？
本年も年末休暇を利用したヨーロッパ旅行が日本女医会協賛で行われるので会員又は関係者の参加を希望している。（全員賛成）

事務所移転について
至誠会館の改築が始められるが保育所を併設するのでスペースが少ないので、この際日本女医会の事務所を外へ移すか、至誠会館の中へ入れてもらうか？
経済的に可能なら独立したいという意見多し。日本医師会館内に欲しいとの意見あり。もし貸室のない場合経済的に負担がかかり、おぼつかないので、至誠会館内の貸室にお願いしたいとの意見であった。

湯本発言
性教育教書の資料蒐集につき、各都道府県の教育委員会、医師会、三悪追放の会などに会長の名で資料の提供を依頼したいが如何？
（全員賛成）
予算五万は書籍購入に当てるつもりである。
（森　千鶴・柳瀬　路子）

ルーペンダントを老人養護施設に贈呈

敬老の日にルーペンダントを老人に差上げたらという提案が七月二四日の常任理事会に出され、全理事のご賛成を得ましたので急拠実行にうつしました。ルーペンダントは会員諸姉もご承知のように高知の小出つる子姉創案によるもので万博に協力する費用を捻出するために日本女医会に特許申請権を委譲され日本女医会所有の実用新案特許として登録番号第九三八四四〇号をもって特許庁に登録されているものであります。会員諸姉の絶大なるご協力により万博協力事業にも大いて役立ったのです。また現在も売上げが伸びており今後も本会の事業の資源として大いに実績をあげたいと期待しているものであります。第一次製品のストックが本部に約六千個ありましたのでこれを当てることに致し、支部にその近辺の無料老人ホームの収容状況と希望数とを問合せましたところ、三三支部より二四、五〇八個の申込がありました。申込数と手持数とのバランスをとって配分し、挨拶状をつけて（別紙一号、二号）各支部長宛発送いたしました。各支部長におかれても本部の意図する所を良くお汲み取り下さり、知事・福祉協会を通じ、或は直接施設へ持参され、慰め少ない老人にさし上げることになりました。本部へ感謝状が全国から参り、日本女医会は良い事をしたとお誉め頂いております。その一部を誌上に発表いたします。（9・28）

群馬県知事に手渡す　岸支部長

□
岩手県立　松寿荘院長　青木　稲造
謹啓。初秋の候となりましたが貴会益々ご清勝の事とお慶び申上ます。さてこの度当荘入荘の老人のために貴会の考案に依るルーペンダンを岩手県支部長土屋臣子氏を通じご寄贈下されありがたく厚くお礼申し上げます。ご寄贈の品は適宜責任をもって配分し有効に使用させるよういたします。最近入荘者の大部分は眼鏡を所持していないのが現状で此度のご好意は老人達にとってこの上ない良い贈物として感銘いたしている次第です。まづは取急ぎ収容老人に代りお礼を申し上げます。向寒の砌貴会一同のご健祥をお祈り申し上げます。

□
群馬県知事　神田　坤六
謹啓　初秋の砌貴会には益々ご清栄の

事お喜び申し上げます。この度貴会から群馬県支部を通じ本県の老人ホームに対し素晴しいルーペンダンをご寄贈頂きまして誠にありがとう存じました。早速県内十四施設に配分させて頂きました。当面老人福祉は社会の大きな課題であり県と致しましても重要施策として取上げ充実強化を計っており老人医療費の公費負担の制度を初め数々の施策を実施しておりますが今後とも一層の進展を図りたいと思っております。どうぞ貴会におかれましても社会福祉に格別のご理解とご協力の程をお願い申し上げます。末筆乍ら貴会のご繁栄と貴会のご健勝を心からお祈りいたしましてお礼のご挨拶といたします。

敬具

□

東都府　満寿園　溝口　きく

時節柄よい季節となりました。私は満寿園にお世話になっている老人でございます。先日園長先生より承りました貴会よりご恵贈の眼鏡老人には一番の重宝の品。老人がそれぞれ頂き私も頂きました。喜んでおります。私も八十才を越えまして眼が若返ったように思いました。どこへ参ります時もこれから先持参いたしまして喜びます。厚くお礼申し上げます。略儀ながら先づはお礼まで。

かしこ

山形県　ひばりが丘老人ホーム
〃　湯野浜思恩園
〃　村山光ホーム
〃　蔵王長寿園
昭島市　同胞互助会
別府市　原子爆弾被爆者別府温泉利用研究所
宮城県　仙台市　仙台長生園長　小林　輝夫
福島県　県立養護老人ホーム　福寿園
〃　社会福祉事業会
〃　郡山市　飯坂特別養護老人ホーム
〃　子持村　春日園　石附　周行
群馬県　榛名町　恵泉園長　原　ツヤ
〃　桐生市　養護老人ホーム
〃　松立寮
〃　大間々町　養護老人ホーム
〃　高崎市　老人ホーム希望館　小出　忠介
埼玉県　内　埼玉県民生部長　松永緑郎
〃　熊谷市　長楽園長・後援会長　久喜町　偕楽園長　高山　錬作
〃　名栗村　名栗園長　石井　岱三
〃　熊谷市　ことぶき園長　高木　正之
〃　加須市　佼成養老園
〃　浦和市　尚和園長　北原　信衛
〃　浦和市　養護老人ホーム年輪荘　木村　義正
〃　行田市　大寿荘園長　山崎　智弘
〃　羽生市　清和園　清和園長
〃　大宮市しらさぎ荘所長
茨城県　福祉協議会長　宮崎広一部
〃　那珂郡　ナザレ園
東京都　杉並区　浴風会長　高木武三郎
〃　葛飾区　高砂園・中川園
神奈川県　福祉協議会・神奈川善意銀行
愛知県　民生部国保福祉課長　伊藤　市郎
〃　名古屋市　尾張荘長　石黒福治郎
石川県　石川県知事　中西　陽一
京都府　民生労働部長　湊　保忠
〃　長生園長　上羽　友義
〃　洛南寮
〃　舞鶴市若宮寮　藤田　貞蔵
和歌山県　和歌山市福祉事務所長　岡本　亮
愛媛県　川元江市福祉事務所
徳島県　徳島県知事　武常　泰信
福岡県　新宮偕同園長　持山　牛雄
長崎県　佐世保市清風園長　川添　諦信
社会福祉法人信光会　松寿苑
個人　高崎市東光老人ホーム　峰岸　タケ
群馬県御嶽老人ホーム　飯塚　舜一
京都府満寿園　野村利喜蔵
〃　寺田　ふみ
（四六・九・三〇）

「敬老の日」の訪問

愛知県支部福祉部　渋谷　朝子

愛知県支部では毎年九月十五日に福祉活動の一端として県内の八十才以上の女医の先生をお訪ねし、お祝い申し上げる事になっております。

この行事を始めて既に五年、当初には四名の先生方がご健在でいらっしゃいましたが、昨年はお一方、今年は伊藤照先生と、千原うえよ先生のお二方になりました。

例年の如く森川支部長をはじめ福祉部担当理事、庶務担当理事五名で記念の品を持って、初秋の陽ざしの中を名古屋市郊外の稲沢市のお宅へ伺いました。

伊藤　照先生を訪ねて

ご盛装でにこやかに玄関へお出迎へ下さいました先生は、本当に清潔な感じのするお方、昨年にも増してお元気そのもので、古いアルバムを素晴らしい記憶力で、医学生時代、女医になりたての頃の想い出、第二次大戦の頃。日夜名古屋駅のプラットホームで出征兵士の健康診断や傷病兵士の手当など、日夜を分たぬご活動で不眠の夜が幾日も続いた事などをつぶさにお話し下さいました。

九月十五日が丁度お誕生日のため今日が八十八才ですと楽しげに語られ、視力も聴力も少しも衰えを感じさせない若々しさでございました。

今もなほ老先生でなければならぬ患者もありますとか伺って唯々その頼もしさに、一同感激致しました。時刻も参りましたので記念の写真を先生を囲んで撮って頂き名残りを惜しみつつ、又来年の訪門をお約束してお暇乞を致しました。

三代の御代雄々しく生き給ひ
米寿迎へ給ふ君ことほがむ

とお祝の歌を差し上げましたら

みほとけの慈悲にすがりて米寿まで
永らへし身の幸をよろこぶ

とご返歌を頂戴致しました。

千原うえよ先生は八十才まで続けられた産婦人科のお仕事を今年三月におやめになられましたが、女医会の学術講演会や、レクリエーションにはかかさずお元気にご出席になられ、また民生委員など、地域社会福祉活動の先頭に立ってご活躍遊ばされていらっしゃいます。

日本万国博覧会
医療救護公式記録より

会期中の業務内容

a患者総数は当初予測数の六万人を大きく上回った。しかし、これは、入場人員が、予測を大幅に上廻ったためであり、患者発生率を一、〇〇〇人当り一、二人と推定していた当初計画とは一致した。

モントリオール博では、五〇、三六〇千人の入場者に対し、患者数は四〇〇三七人、一日平均二二〇人でうち、二十人はいずれも心臓疾患で死亡している。

入場者総数
六四、二一八、七七〇人
（患者数）
患者総数　九〇、四三五人
観客　七七、〇八八人
（内外国人　二、〇四三人）
従業員　一三、三四七人
（内外国人　二、七二二人）
一日平均患者数　四九四人
観客の患者発生率
一、〇〇〇人当り一、二人
会場外の病院へ搬送患者数
七六四人
会場内での観客死亡者　八人
会場外の病院へ搬送治療をうけたのち死亡した観客　四人
従業員奉仕者の死亡者　五人

b死亡者
会場内で死亡した八名の死因は、七名が心臓疾患で、一名はニギリメシを喉につまらせた窒息死（三三才男子）であった。心臓疾患で死亡した患者の年令は五三才（中国人）五七才、六五才、六六才、七〇才、七三才、七七才で六五才以上が五名もあり、死亡者は高令者に多かった。

なお、会場外の病院へ搬送後治療をうけ死亡した観客四名の死因は、心臓疾患一（七三才男）脳疾患二（七四才男、六九才女）、交通事故一（五四才女）と、事故を除きいずれも高令者であった。

また、従業員三名のうち一名は心臓疾患（三二才米国人）火傷二名（二一才男）で火傷一名は電気事故、一名は食堂の調理場で転び、熱いスープを浴びたものであった。

その他二名のうち一名は取材中のカメラマン（二九才男）が、高所から落ちたものであった。

他の一名は奉仕作業中に脳出血で死亡（七四才女）したものである。

c疾病別患者発生状況
「胃腸病」と「トゲ、切創、挫創」が多くこの両者を合わせると二八、六%にも達した。見物に気をとられ、足元がお留守になり階段を転がり落ちたり観光バスの中や会場内で食べ過ぎた人が多かったようである。

期間	観客数	患者数 観客（人）	従業員（人）	計	1日当り発生数	観客1,000人当り患者数
3.15～4.14	8,968,514人	10,223（74.3%）	3,544（25.7%）	13,767人	447人	1.1人
4.15～5.14	8,247,674	7,448（77.5%）	2,159（22 5%）	9,607	325	0.9
5.15～6.14	10,305,150	10,141（84.6%）	1,850（15.4%）	11,991	387	0 98
6.15～7.14	7,980,129	9,196（83.3%）	1,841（16.7%）	11,037	369	1.5
7.15～8.14	11,641,551	19,046（90.1%）	2,076（ 9.9%）	21,122	681	1.6
8.15～9.13	17,075,752	21,034（91.8%）	1,877（ 8.2%）	22,911	760	1.2
計	64,218,770	77,088（85.2%）	13,347（14.8%）	90,435（100%）	494	1.2

どんな病気やケガが多かったか
外科　二五、九三〇人（二八・七%）
内科　五一、二三三人（五六・七%）
その他　一三、二七二人（一四・六%）
計　九〇、四三五人（一〇〇%）

△外科
①トゲ、切創、挫創
一二、二五三人（一三・六%）
②靴ずれ　三、一九〇（三・五%）
③打撲等　二、八三四（三・一%）
④その他　二、六四三（二・九%）
⑤捻挫・骨折
一、九二七（二・二%）

△内科
①胃腸科
一三、四九三（一五・〇%）
②感冒　七、五一五（八・三%）
③急性腹症
五、九九九（六・六%）
④頭痛　五、〇〇九（五・五%）
⑤貧血・めまい
四、一二三（四・六%）

△その他
①歯科　四、一〇三（四・五%）
②耳・ハナ・ノド
三、六二六（四・〇%）
③眼科　二、四〇一（二・七%）

d期間別患者発生状況
開場後第六ヵ月目に患者のピークがあり、第五ヵ月がこれに次ぎ、七月中旬から患者は漸増の傾向を示し、八月十六日には患者数一、〇八二人と、最高を記録し、八月二三日から三十日の一週間は、ついに連日八百人以上の患者数を記録し、さらに九月六日には九五二人のピークができるなど、八月上旬から九月上旬にかけて患者が増加している。

e季節別疾病発生状況
まだ寒い三月中旬から炎暑の八月、残暑きびしい九月中旬までの会期であっただけに、月別に患者の疾病の比率には変化がみられた。

Ⓐ気温の上昇と共に増加した疾病
日射病、全身衰弱、貧血、めまい、靴ずれ、胃腸病、食中毒で、これは、入場者の月別推移をみた場合、四十万以上入場した日数が、第一月に三日、第二月に二日、第三月に六日、第四月に二日、第五月に十二日、第六月に二九日と第六月を例外としても月を追って多数の観客が入場し、会場内の快適度が低下していったことや、暑い時期に冷房したパビリオンを何回も出入りするといったこと、気温の上昇と行列による待ち時間が長くなったこと、暑さと共に飲物のひん度も高くなったことなどが重なったことも、原因の一つと考えられる。

Ⓑ気温の上昇と共に減少した疾病
感冒と頭痛で、当初は、観客も多かったが、寒い風に吹かれながら勤務した従業員の発生率も高かった。

Ⓒ気温の上昇や慣れにより減少したと思われる疾病
トゲ、切創、挫創、捻挫、骨折、打撲等は、気温の上昇とともに観客の服装が軽快となり、また、観客やその案内者も会場内での施設利用や行動に慣れてきた結果ではないかと思われる。

三月二六日に会場内の動く歩道で人が倒れ、さらに多くの人が将棋倒しになった事件があったが、被害者の多くが和服で、しかも寒いので着ぶくれた状態で、手には大きな風呂敷包みを持ち、ゲタばきであった。

Ⓓ季節や入場者数との関連を示さなかった疾病
脱臼、火傷、乗物酔い、心臓疾患、呼吸器疾患および眼科、産婦人科の領域に属するものであった。　以上

ルーペンダン実用新案特許済
ペンダント型　金枠三千円　〒共
銀枠二千円　〒共
クリップ型　金枠二千円　〒共
銀枠千五百円〒共
普及品　千二百円
本会々員は正価の一割引きです。
お申込みの際会員と明記して下さい。

日本女医会年金制度にご加入下さい。お申込み希望の方には資料をお送りいたします。

吉岡弥生賞受賞について
昭和四十七年度受賞候補の適格者を本会理事・支部長までご連絡下さい。

昭和四十六年十月二十日印刷
昭和四十六年十月二十五日発行
編集人　久保田くら
発行人　日本女医会
発行所　東京都新宿区市ケ谷河田町19
社団法人　日本女医会
TEL(341)〇九六八
印刷所　東京都港区白金五-四-一
興栄美術印刷株式会社

題字　吉岡弥生